

2025年度

事業計画書

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日

I. 事業方針

(環境)

2024 年度は、コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスなどの一般的な感染症にも引き続き警戒心を持ちながらも、本会では、研究会を中心に概ね通常の活動を行うことができたと言えます。

2024 年 12 月に健康保険証の新規発行が終了し、マイナ保険証の運用が始まりました。本年（2025 年）12 月には従来の保険証の使用可能な経過措置も終了し、これからマイナ保険証による業務が本格化し、同時に、マイナ保険証を活用した医療 DX が加速していくものと期待されます。

その一方で、医療給付費は、医療技術の進歩に伴う高額な支出が引き続き増加しており、既に 2023 年度には 47 兆円を超える医療費になっており今後も更に大きく伸びると思われます。

また、高齢者への拠出金等については、今後も増加が見込まれており、現役世代の負担がますます重くなっております。国会では、少数与党による不安定な政治状況から高額医療費制度など現役世代の負担を緩和する検討に見直しが行われるなど審議が難航し具体的な打開策が進まない状況だと言えます。

去る 2 月 27 日の政府発表では、2024 年に生まれた子どもの数は 72 万 988 人（前年より 3 万 7643 人の減少）となりました。これは 9 年連続の減少で、統計を取り始めた 1899 年以来過去最少になりました。すなわち将来の社会保障の支え手が急速に減少しており、抜本的な改革がない限り現役世代の負担は更に増加していくことになるでしょう。

このような厳しい社会情勢の中で、本会では、研究会活動や各種イベントでの活動を通して相互に学び合うことで使命である保険者機能の更なる強化と向上を更に推進していかなければなりません。

(2025 年度事業方針)

本年は 12 月にマイナ保険証の本格運用や 2026 年度からスタートする政府の少子化対策によるこども子育て支援金の制度の加入者への周知など、健康保険組合の業務にとっても業務が煩雑となり、これまでとは全く異なった業務が予想されます。これらの状況を踏まえつつ 2025 年度は保険者機能の向上のもと、以下の方針のもと事業を進めてまいります。

- ①全国に会員が拡大している状況を踏まえオンラインを併用した研究会等の事業活動を目指す。
- ②研究会をはじめ保険者機能を高めるための活動で得られた成果は、本会の会員相互に共有することを目指すと同時に、厚生労働省や健保連などにも適宜成果報告や情報提供を行い本会での活動が政策決定の一助なる成果を目指す。
- ③2023 年度以来継続して検討を進めている事業企画委員会（事業企画チーム、研究会チーム）で討議・決定された事項を着実に実施する。特に「マイナンバー研究会」については、期間・参加メンバーを限定し、集中した活動を行う研究会という位置づけを明確にするため、「マイナンバー特別研究会」と名称を改め、今年度も活動を継続する。保険証利用の経過措置の終了（12 月 2 日）に向け、健保組合・加入者が抱える課題を整理し、厚生労働省・健康保険組合連合会と連携をとりながら解決のための提言を行うとともに、会員にもタイムリーに情報提供を行う。本特別研究会は、2025 年 3 月より健保連本部の電子申請 WG への協力を開始している。
- ④本会の活動を外部に向け広く活動状況やその成果についての情報を発信する。学会や専門誌など外部での発表を推奨する。各種の機会を通じ知名度の更なる向上を目指し、同時に新たな会員の発掘を目指す。
- ⑤研究会や各種イベントは、可能な範囲で、首都圏以外での開催を考慮する。普段オンラインで参加している首都圏以外の会員にも対面で参加できるような機会を配慮する。（年 1 回程度）

※2025 年度第 1 回定例理事会を名古屋（4 月 21 日）で開催。（※2024 年度は 4 月に関西講演会を実施）

Ⅱ. 事業計画概要

1. 研究会

保険者機能の推進、強化を目的とした活動テーマを設定し、そのテーマに沿って調査、学習、研究を行い、その活動・議論のとりまとめや成果物の作成などを行っております。2025 年度は、下記の通り 9 研究会を設置いたします。各研究会の活動結果は、小冊子にとりまとめ、健保連、厚労省など関係機関に内容を共有する予定にしております。

2025 年度設置研究会

研究会名	担当理事	リーダー 所属健保
レセプト・健診データ分析研究会	藤代 勉、北川 豊、福井 浩明	木下 健次郎 (パナソニック健保)
健診事業のあり方研究会	飯島 一彦、戸津 玲	戸津 玲 (グラウ・ミスクリン健保)
特定保健指導応用研究会	海宝 和養、六田 忠志	佐久間 淳 (BIJ 健保)
女性の健康研究会	井坂 徳雄、小川 英樹	井坂 徳雄 (C&R グループ健保)
シニアの健康研究会	若林 国弘、沼越 園子	鳥居 勤 (ヤマハ健保)
たばこ対策研究会	小川 佳政、安井 英二	淵上 武彦 (コニカミノルタ健保)
療養費適正化研究会	小川 佳政、永井 立美	原 直人 (トピー健保) 三瓶 円 (azbilグループ 健保)
扶養認定基準研究会	小宗 邦彦、海宝 和養	赤羽 修 (プレス工業健保)
マイナンバー特別研究会	沼越 園子、北川 豊	水村 朱希 (日本ヒューレット・パッカート 健保)

◆各研究会の活動計画（概要）

<レセプト・健診データ分析研究会>

「特定健診・保健指導を中心とした健診関連データ」および「レセプトデータ」の分析により、研究会メンバー健保の個別課題や、各健保共通の課題を見える化を行うとともに、その解決方法についての検討を行います。

<健診事業のあり方研究会>

がん検診、特定健診の2つをテーマとし、それぞれのテーマで下記のような活動を行います。

◎がん検診：精度管理の向上（精度管理のためのチェックリストや精密検査受診状況確認システムの活用等）、科学的根拠に基づく検診実施について

◎特定健診：被扶養者の受診率向上について

<特定保健指導応用研究会>

研究会メンバーの健保で実施している、特定保健指導の事例検討や情報共有などを行います。

また、2024 年度から継続して以下の3つのテーマで分科会活動を行います。

◎特定保健指導実施率の向上に対するアプローチ

◎特定保健指導対象者のリピーター対策

◎重症化予防に向けての保健事業

＜女性の健康研究会＞

以下の3つの活動を行います

◎「婦人科検診」「プレコンセプションケア」「更年期症状」の3チームでの研究活動

◎ 研究会参加健保以外に向けての女性の健康に関する情報発信

◎ 医療 DX を活用した保健事業の取組等に対する財政支援を活用した共同保健事業の検討

＜シニアの健康研究会＞

以下の2つのテーマで活動します。

◎健康なシニア世代を迎えるための、ロコモ・アイフレイル等の諸課題に関する健康施策を健保間で共有し、活用できるコンテンツの研究と作成（若い世代へのアプローチも含む）

◎シニア世代の健康リスク低減に向けて、筋力低下者への指導を目的とした「握力測定」を必須項目とする等の健康診断・保健指導の見直しについての政策研究

＜たばこ対策研究会＞

2025 年度は主に4つのテーマで活動します。

①作りながらマナブ（全員参加）：たばこ対策コンテンツ集の更新

②情報共有しながらマナブ（全員参加）：たばこ対策事例共有、専門家からの講演

③研究・分析（任意選択）：「タバコとレセプトの関係性」または「喫煙問診分析」（予定）

④外部交流（任意選択）：国会議員や外部研究・活動機関などとの連携

尚、これまで本研究会内で実施していた「基礎知識レクチャー」関係は、推進する会（もしくは本研究会）主催で別途開催（全健保対象）予定です。

＜療養費適正化研究会＞

下記の3つのテーマで活動し、かつ数名の講師による講話をいただき、療養費に対する多方面からの知識習得に努めます。

◎療養費適正化の活動の推進

◎柔整師、あはき、装具などからの不適切な請求に対する対応策の情報交換・ディスカッション

◎健康保険加入員への正しい療養費の使い方の啓発

＜扶養認定基準研究会＞

各健保で実施している扶養認定審査についての情報共有や判断の難しい案件を題材にしてのディスカッションを通じて、研究会メンバーの扶養認定基準の考え方や判断基準などのスキルの向上を図ります。また、旧保険証の新規発行の廃止に伴いマイナ保険証移行後の適用業務についての情報共有を行います。

＜マイナンバー研究会＞

「マイナ保険証一体化」に向けて、2024 年度に引き続き、健保組合・加入者が抱える課題を整理し、厚生労働省保険課、健康保険組合連合会本部と連携をとりながら、情報収集、意見交換、課題解決のための提言などの活動を行います。

2. 医療保険制度ゼミナール

健康保険組合をとりまく鮮度のよい話題を取り上げ、健保マネジメント層を主な対象とした講演会を開催します（年3回程度）。7つのステークホルダー（※）から幅広く講演者を選び、新たな切り口、新たな諸団体との連携づくりも念頭に開催を企画します。

※7つのステークホルダー（政治・行政・医療提供・保険者・患者・アカデミア・メディア）

◆講演・テーマ選定の方向性

- ①医療政策・制度 ⇒ アクティブなアカデミア、医師会、医療DX実践団体
- ②医療現場の実践 ⇒ 先進的取り組みを行う医療現場の医師・医療関係者・患者団体
- ③保険者の実践 ⇒ 協会けんぽ・自治体国保
- ④健保事業の実践 ⇒ 産業医・アカデミア・データヘルス関連機関

3. 基礎知識研修会

会員健康保険組合の一般職員を対象とし、事業運営の参考にさせていただくために開催します。内容としては、研究会の活動を支援いただいている有識者による勉強会や、オンラインで参加者同士による議論・情報共有になり、年2回程度開催いたします。また、データ分析の手法を学んでいただくために、対面でおこなう特別講座の開催も予定しています。この特別講座は3回おこなう予定ですが、原則として、3回全てご参加いただくことを想定しております。

4. 常務理事ネットワークの会

自健保の持続性、有用性を高める活動を立案する常務理事には、同じ立場の常務理事間のネットワークの充実が助けになると考え、2024年度より名称を以前の常務理事ゼミナールから常務理事ネットワークの会へと変更して活動しています。2025年度もネットワークを強化することを主目的として会を開催します。開催は年3回を目途とし、健保活動にかかわる時事内容、他健保の活動、常務理事ならではの悩みなど、少人数のグループに分かれて忌憚のない情報共有をおこなう予定です。

5. 事務長ネットワークの会

会員健康保険組合の事務長同士のネットワーク構築を目的として、年2回ハイブリッド形式（対面＋オンライン）で開催します。自主的に運営を支援する事務長が中心となって、マイナ保険証、業務委託先の個人情報管理など、その時々旬なテーマを決定し、少人数のグループに分かれての議論や情報共有を行います。

6. 保険者機能推進全国大会

2012年以降、毎年秋に開催してきた「保険者機能推進全国大会」について、事業企画委員会で検討の結果、内外への当会の活動成果の発信力を一層高める視点で、開催方法を今年度よりリニューアルすることとします。（リニューアルの狙い・コンセプトは下記）。4月に実行委員会を立ち上げ、11月の開催に向け、検討を進めていきます。

【イベント目的の再定義】

会員が集い、活動の成果をお互いにシェア（共有）するとともに、対外的（未加入健保、他の保険者、官公庁、健保連、医療関係者、アカデミア、保健事業者等）にも会の活動をアピールする場とする。また、研究会をはじめとする活動成果の発表を通して、会員の主体性、研究会の活発さや結束の強さ、楽しさもアピールできる場とする。

【コンセプト】

- ① 会の多彩な活動を伝えることができるイベントとする。ワンステージではなく、音楽フェスのようなマルチ会場とし、多くの研究会が成果発表をする場を作る。
- ② 多くの会員が、楽しみながら活動を伝える、参加型イベントとする。
- ③ 「特別講演会」のテーマは会（研究会）の実践する課題に即したものとし、会の活動とつながりの深い講師を招き、その知見を共有する。

【名称案（イメージ）】

保険者フェスタ 2025 ～活動の実りをシェアしよう～



7. プロジェクト

本会として取り組むべき課題が生じた場合は、プロジェクトを機動的に発足させ活動を実施いたします。

8. 事業企画委員会

推進する会全般の中長期における活動のあり方などを継続的に検討することを目的に、事業企画委員会を設置いたします。

Ⅲ. 理事の業務担当

役割	氏名
広報・渉外	★小宗 邦彦、若林 国弘
財務・経理	★小川 佳政
会員サポート	★藤代 勉、北川 豊

<各イベント担当>

全国大会	★若林 国弘、藤代 勉、小川 佳政、北川 豊、飯島 一彦、海宝 和養
研究会サポート	★沼越 園子、海宝 和養
医療保険制度ゼミナール	★若林 国弘、飯島 一彦、福井 浩明、小川 英樹、六田 忠志
基礎知識研修会	★小川 佳政、井坂 徳雄
常務理事ネットワークの会	★小宗 邦彦、海宝 和養
事務長ネットワークの会	★小川 佳政、沼越 園子

★は、各業務の統括者

以上